

第7日

令和7年3月5日（水）

午後1時零分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、13番浅尾静二議員の質問を許可します。13番浅尾静二議員。

（13番浅尾静二君登壇）

○13番（浅尾静二君） 皆様、こんにちは。13番議員の浅尾でございます。本日は議会傍聴いただきまして、どうもありがとうございます。

さて、今日も一般質問させていただきますが、今、テレビ、報道、ニュースでは、いろいろとあまり明るいニュースがないなと思っております。特に、アメリカのトランプ大統領とウクライナのゼレンスキー大統領との激しい口論が繰り広げられたニュースは、本当に驚きました。トランプ大統領の大国主義的なあの世界観、本当にそのような発言が、今、日本は戦後80年ということで、恒久平和に向けての活動が様々されていると思えますけれども、そういう中でそのような態度というのは、我々日本人にとっては本当にいかんともし難いなというふうに思っているのではないかなというふうに思っております。今後、国際社会もどうなっていくのかということが、予断を許さないなというふうに感じております。

また、特に円安、それから燃料費の高騰、人手不足、物価高と、お米の値段は倍、野菜の値段も高止まりと、本当にキャベツの値段とかずっと高いままで、本当に私自身も苦勞をしております。

そういう中で、今、朝倉商工会議所が様々な地域経済の発展とか活性化に向けて取り組んでもいます。もう皆様、目にされたと思えますけれども、観光親善大使の朝倉あきさんのポスターが、この4階にも貼ってありますけれども、「好きです 朝倉」と、あの本当にいい笑顔の写真が甘鉄をバックのポスターが今、貼っておられます。いい笑顔だなと思って私も見ておりますし、個人的に言いますと、私どもの同級生の実は娘さんでございまして、私は直接お会いして話したことはないんですけども、まあいいポスターができたなと思っております。

また今度は商工会議所が今の看板を、復興支援看板をまちなかの3か所作っております。実は来週の10日月曜日に今度は除幕式があるんですけども、今まで復興支援の看板で「頑張ろう朝倉」みたいな看板でしたけども、今度はいわゆる地域活性化、前向きな看板に、明るい看板にしたかどうかということで、市内というか、応募、公募をかけまして、いろいろ応募がありました。その中で、朝倉の観光PRを兼ねた看板ですけども、審査した結果が九州産業大学の造形短期大学の、これは甘木町出身の井上教授という方がおられますけども、その方のゼミの生徒さんが応募されまして、3か所。まず1つ目が甘木インターの出口にお祭りの写真とか、そういうのをこう載せてある裏表の看板なんで

すけども、先ほどから「こんね朝倉」っていうのが今非常に浸透してきておりますけども、タイトルが「ようきたね朝倉」と「またこんね朝倉」と両方を書いて、そういうタイトルで生徒さんが考えていただいております。もう1つが、今度は三福町交差点、稲永ガラス店の前ですけども、そのロータリーにも看板を作るようにしております。その看板は、先ほど熊本議員の甘木公園の桜の話がありましたけれども、3面桜の写真をバーンと載せまして、「あ、さくら」と。平仮名で「あ、さくら」というのが3面できます。非常に今からの桜の時期でいい看板ができるのではないかと。もう1か所が九電の前の交差点ですね。あそこのロータリーもできます。そこは朝倉の特産、名産品を9枚載せまして、そこも3面なんですけども、そういう看板を作って、本当に来週の10日除幕式があるんですけども、ぜひ皆様方も見ていただきたいなというふうに思っております。

そういうことで、朝倉商工会議所も、やっぱ地域経済の発展とか、活性化とか、そういう面に熱心に取り組んでおられますし、朝倉市も、林市長も2期目8年目になりました。災害からの復旧・復興に全力で頑張っていたいただいているのはもう皆さんよく分かっていることでございますし、本当に地方創生とか地域活性化に向けても林市長は非常に前向きに頑張っておられるということも十分私自身も感じております。

そういうことで、朝倉商工会議所の民間団体とか、そういう団体の方々と朝倉市、いわゆる官民が力を合わせていろんなことに取り組んでいくということが、この朝倉の地域活性化に結びつくものだろうと思っております。

今日はそういう意味も込めての一般質問でございます。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になりますけれども、今度、退職されます議会、我々議会では小川事務局長も退職されます。様々な今まで貢献された幹部の方々が今度退職されますけれども、この後も朝倉市のためにもまた御尽力いただければというふうに思っております。それではよろしくお願ひいたします。

(13番浅尾静二君降壇)

○議長（小島清人君） 13番浅尾静二議員。

○13番（浅尾静二君） それでは通告に従いまして、質問をさせていただきます。

まずは重要な観光資源であるキリン花園の再開に向けての朝倉市の対応についてということでございます。

これの件につきましては、私は昨年の11月の終わりに初めてこの件を知りました。本当に皆さん、もう本当に驚いたことです。あれだけ朝倉市の観光資源としてたくさんのお客さんが見えられていたコスモス園が昨年で最後と。今年からはもうないということになりました。このことについて、朝倉市のホームページにも、朝倉のキリンコスモスフェスタは令和7年度以降開催中止となりましたということで、長年の御愛顧を誠にありがとうございましたというメッセージも、朝倉市のホームページにも載っております。

このようなことで驚いたわけですが、まずは執行部にお尋ねしたいのが、コスモスフェスタが今年から中止となりました。この原因について何かを、まずはお尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） このコスモスフェスタの開催のための……失礼しました。この中止となった原因ということでございますが、このフェスタ開催のための資金確保、人材の確保が難しくなったことから、令和7年以降の開催は中止せざるを得ないとの判断に至ったということをついておられます。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） これは直接聞いたわけではございませんけど、本当は聞くところによりますと、おおよそ2,000万円の費用がかかっていたというふうに聞いております。いわゆる圃場の整備にも500万円ぐらいかかっていたというふうなことです。

今回、中止の決定に至るまでの市の対応を今度はお尋ねしたいと思いますけども、2022年に朝倉市と麒麟ビール福岡工場は地域活性化に関する包括連携協定を結んでいたと思います。補助金の今回中止に当たっての今後についての補助金の相談とかもあったのかなとは想像しますが、連携協定の内容とかでどのような話合いの中で食い違いがあったのかということ、まずはお尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 令和4年7月の包括連携協定の締結に当たりましては、このコスモスフェスタに関連してお答えさせていただきますと、主に次の2点について協議をしたところでございます。

1つ目は九州を代表するコスモスの名所として県内外に認知されております既存のコスモスフェスタイベントを、共同企画開催する。2つ目は、市民参加の体験イベントの実施や市内周遊を促すイベントの実施を検討するというところであります。

なお、既存のコスモスフェスタイベントへの市の費用負担についての話は行っておりません。

その後の協議においての共同開催の責任分担に関しての市の考え方といたしましては、1つ目、従来、麒麟ビール福岡工場が行っていた花園の維持、管理、警備、周知事業につきましては、麒麟ビール福岡工場が行う。2つ目、コスモスフェスタを高付加価値化する事業、新規に行う事業につきましては、朝倉市と麒麟ビール福岡工場で責任分担して事業を実施するというものであります。

麒麟ビール福岡工場といたしましては、現行のコスモスフェスタ事業はともに主催者であり、持続可能な事業としたいとのことから、朝倉市の費用負担と朝倉市職員の出役についての検討要請がありました。共同開催という考え方に双方認識の差があったため、協議を重ねてきたところでございます。市としましては、共同開催になったとはいえ、これ

まで麒麟ビール福岡工場が行ってきた事業であります。そのため費用確保が難しくなってきたからといって市が費用負担をすれば、他の事業者との公平性が保てないと考えております。そのため、このフェスタを活用した拡充事業、例えば市内周遊を促す事業に対して費用負担・人的負担を行うとの考え方を述べてきたところであります。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 様々な協議が行われた結果だというふうに思います。

それでは、麒麟花園コスモスフェスタは地域貢献、経済効果がかなりのものであったと思っております。まずこのことに対する評価はどういうふうに評価をしておりますでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） このコスモスフェスタにつきましては、開催期間中、20万人の来訪者がある大きなイベントであります。これは、朝倉市全体の観光入り込み客数約200万人の1割相当に当たりまして、市内有数の観光地であります秋月の年間入り込み客数とほぼ同等数を誘客するもので、朝倉市の重要な観光資源と評価しておりました。そのことは麒麟ビール福岡工場側にも伝えておるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 先ほどの連携協定の話の中での麒麟ビールとの今までのやり取りの中で、様々ないわゆる市の見解としては、今まで麒麟ビールが独自でやっていたことということで、ほかの市内一般の事業に照らし合わせたときに、いわゆる公平性が保たれないとか、一民間企業、いくら麒麟ビールとはいえ一民間企業のことに対して出せないというふうなことが主な原因だったのかなというふうに思っております。

しかしながら、麒麟ビール福岡工場のこの朝倉市に対する貢献度ですね。それこそ朝倉市の中でも第2次朝倉市観光振興指針の中にも、朝倉市の観光に関する調査をしてありますね。朝倉市の主要観光地の訪問経験と認知度を調査した結果も載せてあります。その中で、麒麟ビール福岡工場は秋月の城下町、三連水車の里あさくら、原鶴温泉に次ぐ観光資源ということで、非常に先ほども200万人の朝倉市内に観光を入り込み客数のうちの1割20万人の人が来てあるということで、この辺の観光資源の価値というのは朝倉市にとっては本当に大きなものということで、改めて部長のお話を聞きながらそう思ったわけですが、それでは麒麟ビール福岡工場の今後、コスモス園、いわゆる麒麟花園の再開の意思はあるのかを把握してあるのかどうかをお伺いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 中止決定以降、その話をしてから後につきましては、このコスモスフェスタに関しての協議は行っておりませんで、麒麟ビール福岡工場側の再開の意思は直接的には把握をしていないところでございます。現在のところ市としましては、再開に向けての具体的な策は持ち合わせておりません。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 部長の答弁で、今、再開の具体的なことのやり取りはしていないというふうな答弁でしたけれども、やはりこの中止になって、今後どうしていくのかというときに、まずそのお金の面も、まずはいろいろ麒麟ビール福岡工場の会社の方針、都合など、いろいろ様々な要因があつての今回の決断ということになったと思いますけれども、朝倉市とすれば、麒麟ビール福岡工場に対するそれなりの、今までいろいろ連携協定も結ばれてお話しはしてきてあるだろうと思いますけれども、もう随分日にちも経とうとしておる中で、やはり熱意とか、そういうものはやっぱり示していき続けなければならないんじゃないだろうかと、私はそういうふうに感じています。やはりその熱意、ある意味麒麟ビール福岡工場に対する感謝、そういった気持ちは、私はどういう手段を使つても示していく必要がまずは基本にはあるべき姿ではないのかなというふうに思っております。

それでは、再開に向けてどういった可能性があるのかということで、これは、私は個人的にいろいろ考えてみました。

今までの話をいろいろ聞いていきますと、麒麟ビール福岡工場がこれまでのように単独麒麟ビール福岡工場が主体となつてのコスモス園とか麒麟花園の運営は、もう今後、厳しいのではないだろうかというのがやはり感じ取られます。じゃあ今後、それをどういったふうに改善していくのかということは、やはり麒麟花園の管理とか、イベントを行う団体、組織を新たに作る必要があるのではないだろうかと思っております。

ちょうど私は麒麟ビール福岡工場の麒麟花園は、あさくら観光協会さんが以前からずっと関わりを持っておりました。今回も3月16日に、今、このポスターもちょっと手元に持ってきておりますけれども、あさくらサイクルフェスティバルということで8回目ということで、ポスターが今、出来ておりますけれども、ここも麒麟ビール福岡工場の中で主体にいたしまして、市内を回ってもらふようなサイクリングのあさくらサイクルフェスティバルということになっておりますけれども、ここの組織が実行委員会形式で作っております。これはあさくら観光協会の内規とかが書いてありますけれども、恐らく主体的にはあさくら観光協会が主体となつて動いてあることだろうと思っております。

その中に、協力団体として朝倉市、筑前町、東峰村、西日本新聞、朝倉商工会議所、朝倉商工会、様々な団体の名前が連ねられております。こういったイメージで今後、考えていってはどうかと。あさくら観光協会がいわゆる主体、冠の組織となりまして、その中に朝倉市、あるいは筑前町、朝倉商工会議所、朝倉商工会、JA、いろんなライオンズだったり、いろんな団体があると思いますけれども、そういった団体の方々が参加をしながら、ある意味、別組織を作り上げ、その組織に対して麒麟ビールが今のコスモス園、麒麟花園の土地の提供であつたり、もちろん麒麟ビールさんからも協賛金、そして朝倉市からもそれなりの資金は出さなければなりませんし、そういった団体の中での取組を

していけば、これは実現可能ではないのかなと、私はそういうふうに思っております。これが軌道に乗るまでは、やはり朝倉市が主体となってリーダーシップを取っていかなければならないのではないかなと思っております。この提案に対して市長、どう思われますでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） キリン花園におきますコスモスフェスタの中止といったことについては、非常に残念であるというふうに私も考えております。こういったことでありますが、今、議員からいろいろとお話がありまして、やはり本市におけます経済効果、あるいは観光面での貢献といったこと等を考えますと、再開ができればいいというふうに私は感じております。

そこで、キリンビール側が、再開の意思があるかどうかといったことを確かめて、そして今言われましたような実行委員会形式など、新たな枠組みを、枠組みをもって再開できるのかどうかといったことを、あるいはまた一方では、費用負担の部分が大きい部分がありますので、これをどうするか、そういった課題を解決できるのかということ、やはり確認をする必要がありますので、そういったことでもって対応したいと。まずはキリンビール側の、再開に向けての意思がおありになるかどうかということを確認をしたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） キリンビールの工場長とも、皆さんそれぞれ話す機会があらわれると思います。私もいろいろ関係ございまして、ちょっとお話も、それこそ個人的なお話です。キリンビールとしても、何とか今まで二十数年間コスモス園をやってきて、あれだけのお客さん、あれだけの市、県、内外からも多くのお客さんが来られている、何とか再開はしたいというふうな意思是、工場長の意思是、私は十分感じられました。

市長の答弁にもありましたように、何とか再開の道はないのかということでのお考えは十分受け取りましたけれども、やはり最低でも、最低でも朝倉市がリーダーシップを取ると、別組織、別団体を作るというのは当然ですけれども、当然だろうと私は思っておりますけれども、仮にあさくら観光協会さんが頭に並んだとしても、やはり人もそんなに抱えている団体ではない、ましてそんなお金も持っている団体ではない。やはりそういう意味では観光協会という、朝倉市の観光を担う団体ですので、皆さんが協力し合いながら運営していくというのが理想的な姿だろうと思いますし、やはりその中のリーダーシップというのは、やはり朝倉市、朝倉市長の、やっぱり僕は熱意と、キリンビールに対する感謝という気持ちをやはり前面に出していただいて、この交渉に乗っていただきたいというふうに私は思います。

私は——言うまでもなく、キリンビール福岡工場はこの朝倉市にとっても本当に貴重な企業ですよ。税収の面、ふるさと応援寄附金、二十数億円の中でもどれだけの数字がある

かどうか私は分かりませんが、想像するに6割、7割は恐らくキリンビールの商品ではないでしょうか。そういった意味でも、どれだけこのキリンビール福岡工場に対するこの朝倉市の、いわゆる今まで恩恵を受けてきたと。今後は少しでも知恵を絞りながら、お金を、先ほどそれだけの実際のふるさと応援寄附金なども、実際のそれだけ収入も朝倉市は得ておりますので、少しは還元しても私は全然おかしくはないと思います。いろんな手法はあると思いますよ、クラウドファンディングであったり、いろいろ手法はあると思いますけれども、そういう手法じゃなくしてやはり朝倉市がメインとなってやっていただきたいと、そういうふうに強く思います。ぜひともこの件については必ず再開をするという市長のリーダーシップを発揮していただきたいと私は切に思って、次の質問にいきます。

今後も、このような事例がたくさん出てくるのではないだろうかと思っております。地域活性化の取組が、これまでのようにはいかなくなってきた。なくしてはならない取組をどう持続させるかが問われる時代となってきております。これまでの行政ルールとして、朝倉市がキリン花園に対する直接的な支援ができなかったということは、これは行政のルールとしては十分理解をいたします。しかしながら、今後の時代に合わせた対応というのは必要ではないだろうかと思っております。

私の地元、甘木地区、これは甘木に限った話ではありませんけれども、商店街も時代の流れで昔の面影はなくなりました。三、四十年前は、アーケード商店街では土曜夜市とか、いろんな賑わいがあって本当に賑わってございましたけれども、しかしながら、今は若い経営者がおしゃれなパン屋さんを出したり、カフェ、飲食店など新たな出店も出てきております。時代、人の変わり、世代も変わってきたなというのを私自身も実感をしております。

今、3月1日から16日まで甘木、立石地区の飲食店でグルメフェアという、御存じの方もあるかもしれませんが、そういった市内の飲食店、30店舗で食べて当てようキャンペーンということで、御来店いただいたお客様にちょっと申し込んでいただく、QRコードで読み込んでもらって、それを応募してもらおうと地元のお酒、お肉とか、お菓子が当たるような、そんな派手なイベントではないんですけども、そういったイベントを今やっています。このイベントにつきましては、甘木本通り商店街が活用している、今まで活用していた補助金の一部を充当させていただいてやるイベントで今最中でございます。これも地域活性化の一つであるイベントでございますけども、これやっぱり一過性の取組でございます、このようなイベントをいくつも重ねていくことで初めて効果が出ることはないだろうかと考えております。このような取組を、若い経営者が地域活性化につながるようなアイデアとかたくさん持っております。そういったアイデアもたくさん聞くんですけども、いざ実現するとなると、なかなかできないと。このような人たちをいかに育てていくか、このような人材をいかに育てていくか、このようなサポートをしなければならぬと、私は朝倉市もその立場であろうと考えております。朝倉市としては現状をどのように認識し、また対策を講じているのかをお尋ねしたいと思っております。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 地域を担う若い人材の育成とサポートというところでございます。地域の活性化につきましては重要な施策だと思っておりますし、地域を担う人材育成というのは必要なことだというふうに認識をしているところでございます。単独の組織や行政だけでは地域の活性化の実現は現在、困難になりつつある状況でございますし、今後、地域の活性化を維持するには、事業主や行政だけでなく、市民をはじめ多くの関係者の協働によって模索する必要があるというふうに考えているところでございます。

本市の新たな取組としまして、今年度から「CANOW PROJECT～叶うプロジェクト～」という事業をスタートしております。これは、地域を盛り上げるアイデアをアイデアバンクに登録をさせていただいて、そのアイデアを実現するという団体に補助金を交付をしまして支援をするという事業でございます。地域活性化にもつながるものと考えておりますので、このような事業も生かして、今後、地域の人材育成等に努めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 本当に若い人たちをいかに育てていくかということが、今後の持続的なまちづくりとか持続的な地域づくりには本当に不可欠な要素でございます。ぜひ頑張ってくださいと思います。

市街地や商業地区は、小規模事業者などで個店が詰まっている地域であります。いわゆる地域活性化と一般的に言われますけれども、結局は各事業者、個店が元気にならないと。そしてその結果として、その地域が元気になるということなんです。やはりそういった、今まで行政が一つの事業者、個店に対する補助金がなかなか出しづらいつつ、そういった行政のルールというものもありますけれども、やはり今の時代に合わせたいろんな施策を打ちながら、時代の変化に合わせたスピーディーな対応をしていかなければならないんじゃないかなというふうに思っております。

もう一つの観点としてましては、いわゆるおくんちであったり、甘木で言えば山笠であったり、お祭りもたくさんあります。昔から受け継いできた伝統行事、伝統文化も減退をしていると思います。この原因とすれば少子高齢化、人口減少による担い手不足、物価高騰であったり資金不足が要因であります。このような地域活性化につながるような取組を次世代につなぐには、やはり今後は行政の財政的な支援も必要ではないのかなと思っておりますけれども、この件についてはいかがお思いでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 各事業者や個人商店などがそれぞれ元気になることは、地域の活性化、それから地域経済の活性化につながるものというふうに考えているところでございます。

また、少子高齢化、人口減少により担い手不足によりまして、伝統行事や伝統文化

の開催が危ぶまれていることにつきましては、市としても危機感を感じているところでございます。地方創生の取組によりまして人口減少を抑えるとともに、さらなる社会増や関係人口の創出によりまして、地域活性化の新たな担い手を確保していくことが必要であるということも考えているところでございます。

また、福岡県では伝統行事の実施団体からの支援要請に応じまして、ボランティアを派遣するという、地域伝統行事お助け隊という事業を実施しておりまして、このような事業を活用することも検討する必要があるというふうを感じているところでございます。地域活性化につながる取組を次世代につなぐための財政的な支援ということにつきましては、市として公平性、それから公益性を保ちつつ、どのような支援ができるのかということを検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 財政的な支援というのは、これはなかなかのルールがございますので、そう簡単にはいかないことではあるけれども、やはりそこは柔軟に考えていただきたいと思っております。

先ほどの県の取組とかもちよっと聞きましたけれども、やはり行政のネットワーク、こういった人的支援も本当にやはり必要なことだろうと思っておりますので、ぜひ前向きに捉えていただきたいと思っております。

私がよく思うのは、こういった取組ってというのは市民のいわゆるモチベーションを下げてはいけない、一般的に言われる自分たちの町、地域に誇りを持ち、その町、地域をよくするための貢献しようとする心意気、よく言われるのがシビックプライド、このことを育てていかなければならないと、強く私も思っております。そういう、もう時代が変わったからと言えればそれまでですけども、こういった心意気ってというのはやはり地域活性化、地域社会の活性化には欠かすことのできない人々の気持ちの在り方だろうと思っております。

先ほど来、一般質問の中でも、今度7年度の中では市制20周年の事業であったり、藩校サミット、いわゆるいろんな市民の皆様の気持ち、高揚をするような取組がたくさん企画はされていると思っておりますけれども、やはり先ほどのコスモス花園の話ではございませんけれども、市長のリーダーシップ、心意気だろうと思っております。そういった気持ちをぜひとも市長に出していただきたいと思っておりますけれども、市長、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） しっかりやっています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長も、よく私どもが盆俄、甘木盆俄等でもたくさん御協力いただいておりますし、そういった地域活性化、地方創生に向けての市長の前向きな姿勢というのは私も十分理解しておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、次の質問に移ります。十文字公園の整備着手と総合的体育施設建設の計画の白紙についての件でございます。

総合的体育館の計画の白紙については、私はついに市長は、白紙の決断をされたなど。いわゆる今まで以前の施政方針の中でも責任ある決断をするというふうに、今までおっしゃってました。ついに下されたなどというのが私の率直な思いでございます。白紙の判断を下したこの市長の考えを、まずはお伺いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 総合的体育施設建設を白紙にした、そのことについて述べさせていただきます。

大災害前の平成29年度、当初予算において財政上の理由により、前森田市長時代に凍結しており、私が就任する前から市として抱えていた事業であります。平成28年当時、市庁舎、駅前周辺整備、総合的体育施設などの事業について、財政論議がかなりなされたと聞き及んでおります。

その後、平成29年7月に、皆さん御存じのように九州北部豪雨が発生をいたしました。全国的にも過去に類を見ない流木土砂災害で33名がお亡くなりになり、2名がいまだ行方不明という惨事となったところであります。我々のふるさとがこんなに傷つけられ、全く違う景色になった状態、皆さんもそうだったでしょう。本当に何をどうしたらいいかわからず、目の前のことを一つ一つ対応するしかなかったこと。

そんな中で、当時、県議会議員として同僚であった栗原県議、現在衆議院議員となられておられます、と2人で奔走したことを昨日のように覚えております。その後、平成30年に県議会議員を辞職し、皆様の御推薦、御協力をいただき、市長として就任をいたしました。そのときの思い、ふるさと朝倉を取り戻す気持ちは、現在もなお心に刻み、公務に取り組んでいるところであります。

災害発生時、その直後、あれだけの災害復旧事業をどう進めていくのかが一番の課題であります。当然、それまで計画されていた様々な事業は凍結、延期などしないと、この大災害に対応できなかったことは、皆様も御理解いただいていたというふうに思います。その後、朝倉市民や全国の方々の力をお貸しいただき、懸命に災害復旧・復興に取り組んでまいりました。災害復旧事業以外の事業も少しずつではありますが、実施をしてきたところでございます。

災害から約5年近く経過したとき、まだ災害関連事業は続いており、私の市長就任2年目の冒頭では、新庁舎建設は再開するものの、総合的体育施設建設は自分の任期である令和7年度までは財政的に難しいと考えました。この時点で白紙とすべきではとの声をよく聞いたところでありますが、私としてはこれまでの議論や経過の重み、各種団体等の思いを鑑み、最大限建設に向けた努力はすべきであると考え、財政状況を見ながら検討を続けさせていただきました。

令和5年あたりになりますと、この年は国の災害復旧事業、赤谷川河川におきます事業が完了した年であります。災害復旧の進捗やふるさと納税寄附額の状況から、このまま行けばもしかしたら再開できるのではないかと考え出した矢先に、同じ年、令和5年7月に再び大きな災害が発生をいたしました。平成29年の大災害まではありませんが、事業費で平成24年の災害を大きく上回るものであります。令和5年の下半期は、平成29年災、令和5年災を合わせた災害復旧事業費等に時間を要したところであります。激甚指定はあったものの、約120億円超の事業費が見込まれております。この金額も今後のインフラライドや、土砂置場の位置などにより増工する可能性はまだ高くなるものと考えざるを得ません。

また、近年の工事材料費、人件費の高騰は、既に御承知のことと思いますが、インフラライドなどに見られるように、全ての工事に影響しております。職員等の人件費や様々な委託事業の大幅な増額など、厳しい歳出となっております。もしかしたら災害復旧事業の進捗イコール災害復旧事業が終わっていていると考える方がおられるかも知れませんが、事業の財源として借り入れた起債、借金は返済までいたしませんと財政的には終わりを迎えることにはなりません。

これまで平成29年から令和5年にかけて、令和5年災を含まない災害関連事業費等を約561億円執行してまいりました。これには、市費として起債約111億円と一般財源約129億円が必要でありました。一般財源については、おおむね特別交付税で措置されておりますが、起債については交付税措置が一定あるものの全額ではなく、厳しい財政状況でございます。

また、市として今後実施する事業を考えたとき、サン・ポート施設の建替や、国道322号整備による甘木駅周辺整備などの計画があります。このようなことを勘案いたしまして、苦渋の決断ではありますが、総合的体育施設については白紙とする判断をいたしましたところであります。

以上が、今回白紙といたしました経緯や判断についてでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 市長の今、答弁がございました。この白紙に至ったこれまでの事情というのはよく理解をさせていただきます。その中でもやはり今まで校友会の皆様方、あるいは体育協会の皆様方から、この体育館に対する御期待の声もあったのも事実ですし、体育施設はどこかの部分で必要ではないかという意見が出てくるのもごもっともと私も思っております。そういった中で財政の状況については、よく私どもも理解はしているつもりではございますけども、今後この総合体育館建設は白紙というふうになりましたけども、朝倉市の体育施設は今後どういうふうなことでいくのかというビジョンは、少なくとも私は持っておかなければならないのかなというふうには思っております。私は、今までの一般質問の中でも、この現庁舎跡地計画の中で甘木体育センター、それから武道館の建替を

この機にやってはどうかというふうなことも今までこの一般質問の中でもやってきました。が、なかなか今の市長の答弁にもございますように、財政上なかなか難しいだろうというふうには私自身もそういうふうには思います。しかしながら、ビジョンとしてはやはり私は市民には示す必要があるのではないかなというふうに思っておりますので、そこら辺のことを再度答弁をお願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 体育施設のビジョンということでございますけども、市長の施政方針の中にもございましたとおり、現施設の長寿命化や維持補修を基本として対応していくということでございます。また、このことにつきましては、関係団体を含め、施設の利用者であるとか、そういった方々の声に耳を傾けながら対応していく必要があるというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 現本庁舎の跡地の活用の検討についてでございますけども、これにつきましては、現庁舎、それから別館がある敷地としてございます。

現在、水資源機構と敷地の必要面積等について協議を進めているところでございまして、庁舎跡地活用の中で体育施設についての検討は考えていない状況でございます。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 今、現施設の維持管理と、それとこの現庁舎跡地の中では水資源の関係が出てきたので、今のところ考えていないというふうな答弁でしたが、先ほども言いましたように、今まで期待されていた市民の声、この声はしっかり受け止められて、財政状況を今後見ながら、次の展開を早く私は示していただきたいというふうにお願いをしておきます。

結局今回、総合体育館が白紙になったという原因は、やはり財政状況の問題が一番でした。平成26年にあの総合的体育館を、基本設計時は38億円でしたが、再試算をしたかどうかは分かりませんが、今造れば約50億円はかかるのではないかなと。倍、50億円どころかもっとかかるのではないかなというふうに想像ができます。今回白紙とした原因が財政上の理由ということであれば、今まで一般質問答弁などあった中で、朝倉市財政の見通しについての報告も本来私は同時にすべきであろうと思っております。この数字を示すということは、これは市民に対しての説明責任も私はあるというふうに思いますし、まして昨年11月9日の全員協議会では、十文字公園計画の修正設計の報告がございました。暫定事業、1万3,000平米の多目的グラウンドについては、総合的体育館を建設するのかどうかという判断を下して計画すべきという意見に対して、執行部は朝倉市の財政見通しの中で判断すると答弁をしてくれておりますし、先ほども言いましたように、一般質問の中でも、年明けて年度内に出すと答弁をしてくれております。具体的な数字を示した上で総合的体育施設の白紙、政策の変更をせざるを得なかったと説明する場面は、私は議会に

対して必要ではないのかなというふうに思っております。そもそも今回出そうとしている朝倉市財政の見通しは、令和7年度予算も含んでの向こう5年間の財政の見通しでございます。12日から予算委員会が始まりますが、各課質疑が終わった後、財政の見通しの報告、説明を受けた上で私は総括質疑に入るべきではないかと思っております。今回の総合的体育館の白紙の件、それから今から十文字公園、恐らく10億円近くかかる予算だったと思いますが、そういった後年度に係る継続事業などを見るためには、やはり予算審査の中、あるいは最後の総括質疑に入る前に今回の財政見通しの説明を私は受ける必要があると思っております。どうお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 財政の見通しを総括質疑前に説明してはということでございます。

できることについては対応させていただきたいと考えておりますが、全員協議会等の開催については、執行部で判断できるものではございませんので、そのあたりはまた議会事務局とも相談させて、対応させていただきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） せっかくの今回の私の機会といたしますか、ぜひともこの朝倉市の財政見通しを担当課が可能であれば、14日の各課質疑が終わり、全員協議会を開いていただいて朝倉市の財政の見通しの説明をぜひともお願いできればと思っております。これは議長の専権事項、全員協議会を開くか開かないかというのは議長の専権事項ですので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

それでは次に、十文字公園の整備についての質問をさせていただきます。

先ほど言いましたように、昨年11月19日の全員協議会では、十文字公園の修正設計の計画を令和7年度から着手するという報告がございました。その中で今回総合体育館が白紙となったわけですが、その敷地、1万3,000平米の多目的グラウンドの整備はどういうふうにするかをお尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 昨年11月の市議会全員協議会で説明させていただきましたとおり、十文字公園整備計画につきましては、令和7年度から着手しまして、令和11年度の完成を目指していきたいというふうに考えております。

この十文字公園整備事業の整備テーマでございますが、これは「食と農と健康が集うふるさとの公園」としており、その中で「農と憩いのエリア」、それから「スポーツエリア」、そして「農林業団体誘導エリア」と3つのゾーニングを行いまして、今日まで事業を進めてきております。

総合的体育施設建設につきましては、このスポーツエリアのメニューの一つではあるものの、その具体的方向性は、市民の健康増進や市民交流、活動の場としての活用でございます。

まして、生涯スポーツの推進、スポーツを通じた市民交流の推進、ウォーキング等の推進等を導入すべき機能としております。よって、総合的体育施設建設予定箇所につきましては、多目的グラウンドとして整備することを含めまして、多くの人が集い、市民の交流や活動の場となるようなスポーツエリアとしての整備内容を検討してまいりたいと思いますので、時間を頂きたいというふうに思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 1万3,000平米の体育館の敷地についての考え方ですけども、時間をくださいというふうな答弁だったと思いますが、この件につきましても、先ほどの全員協議会の中でもいろんな意見が出ておりました。多目的グラウンド、サッカーグラウンドが2つ入るぐらいの面積でもございます。これだけの広さですから、社会人の方々にも御利用を頂きたいと。そうしてくると夜間照明の問題であったり、あるいは更衣室、ロッカーとか、そういったものも兼ね備える施設でないとやはりなかなか利用はできないと私は思います。今から事業をしながら検討していくということでありましようけども、やはり事業をしながらつくっていくというのは、なかなか私はイメージが湧かないんですけども、本来であれば計画をつくって、それから事業に入るというのが本来の公的な事業の在り方ではないのかなと思っておりますけども、この件についても一回答弁をお願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 事業の進行につきましては、国の交付金事業の関係もございまして、実施してまいりたいというふうに思っております。令和7年度につきましては、公園全体の造成工事、それから調整池の工事を行うこととしておりますので、スポーツエリアの見直しについては、スケジュール的には支障は出ないというふうな考えを持っております。これから市の若手職員の意見なども参考にしながら、しっかりと検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 今から考えていくという、若手職員ということも出てきましたけども、今から、本来この公園の在り方については、私は今まで何回も言ってきましたが、総合体育館と都市公園、いわゆる公園をセットにした考え方の公園でした。これが体育館がなくなる、しかしながら健康増進の利用を目的に整備をするという基本方針に乗っかっての答弁は答弁として成り立ちますけども、実際は体育館がなくなった後のグラウンド、そして公園、そもそものコンセプトが変わってきます。このコンセプト、グラウンドデザインとか、いわゆる十文字公園のビジョンというのをもう一回、私は考え直さなければならぬのかなと思っております。もう一回その辺の、もう交付金事業が始まりますのでお金はかけられないと私は思いますので、特にその1万3,000平米のグラウンド、このことについては先ほど部長も若手職員という言葉も出てきましたけども、昨日の一般質問の中で

もオートキャンプ場の発案には若手職員の知恵を借りて提案があったというふうな話もございましたので、ぜひとも市のいわゆるモチベーション、若手職員のモチベーションを上げるためにも、ぜひとも若手職員のアイデアを上げて、今後この設計には十分慎重に取り組んでいただきたいと思います。

私は本当に今まで一般質問、この件についていろいろやってきたわけですが、この体育館は財源が伴わないので白紙にはすべきではないかということ、それから十文字公園の見直しについても行ってまいりました。十文字公園、平成28年には都市計画を決定し、交付金事業も行っております。林市長の総合的体育館建設はしないが公園整備を行うということは、この市議会も認めてきたことではございます。しかし個人的には、今でも7ヘクタールのあの公園敷地は農業関連施設、あるいは民間活用ができないのかなと私は今でも思っておりますし、特に1万3,000平米の体育館の敷地は、確かに多目的グラウンドとかいう考え方も修正設計までできておるので仕方ないと——私は思っていないが——1万3,000平米のあの土地については農業関連施設であったり、ほかの民間活用ができないのかなと私は切に思っております。この朝農跡地の問題は平成19年から始まりまして、校友会の寄附採納の要望から始まりまして、私を含めた現在5期生以上の方は、ずっとこの件に関わってきたと思っております。もう18年も前のことです。朝倉農業の校友会の方々からの寄附採納、それから農林業の振興を推進するなど、地域経済発展のために活用していただきたいというのが校友会の方々の基本的な思いではなかったのかなと私は思っております。いろいろこの公園についても、お金を出すばかりではなくして、次の世代に維持管理だけが負担に残るような公園は私は決してつくっていただきたくはない。せめて指定管理で委託できるとか、民間委託ができるとか、そういった7ヘクタールの市有地ですので、経済的な効果が生まれるような公園計画、これをしっかりもう一回考えて、今後の事業に臨んでいただくということを切に要望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（小島清人君） 13番浅尾静二議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後2時15分に再開いたします。

午後2時5分休憩